

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0175700335		
法人名	株式会社 一条		
事業所名	グループホーム ほろむい		
所在地	岩見沢市幌向北2条1丁目611-127 (電話) 0126-26-5673		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年10月24日	評価確定日	平成20年11月28日

【情報提供票より】 (20年10月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 8月 9日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤 17人 非常勤 2人 常勤換算18人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費18,000 円 暖房費(11~3月)8,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,333 円			

(4) 利用者の概要 (10月 24日現在)

利用者人数	26名	男性	3名	女性	23名
要介護1	6名	要介護2	9名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.5歳	最低	74歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中クリニック、牧病院、岩見沢脳神経外科、北翔病院、かみびら歯科、倉増整形外科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幌向地域で唯一のグループホームであり、地域との係わりが良好である。地域のお祭りや行事に参加したり、併設のデイサービスの催し物に参加し、利用者の楽しみとなっている。ユニット毎に、独立したケアサービスに力を入れているが、グループホームは5つのユニットで構成され、デイサービスも含めて、運営推進会議や防災訓練など、合同で開催し、地域・行政からの支援もあり、協力体制が出来つつある。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	理念に地域密着型サービスを追加し、実践に努めている。プライバシーに配慮した取り組みがなされ、各項目に改善が見られる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	自己評価項目は職員が手分けをして、部分的に記載をしているが、ガイドブックを十分参照していない面がみられ、目標点などに差異が見られる。検討が不十分な項目もある。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は、ほろむい2号館と合同で2ヵ月毎に開催し、幅広い範囲のメンバーで有意義に行なっている。報告のみならず、意見交換もあり、運営に参考している。特に行政の方が出席し、情報の共有を図っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	各ユニット毎に隔月「お便り」を発行し、家族の方々にホームの様子をお知らせしている。玄関に意見箱の設置があるが、むしろ面会時の言葉かけで様々な意見や要望を受け止め、改善や介護計画に活かした取り組みをしている。面会の少ない家族とは電話で連絡をしている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	ホームは町内会に加入し、地域の行事に利用者は職員とともに参加し、楽しんでいる。地域ぐるみで開催する福祉交流会など、活発な取り組みが見られる。近くの児童会館の子供たちとの交流もある。ほろむい2号館とデイサービスと合同での係わりが、地域とさらに連携を深くしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に作成した理念に地域密着型サービスとしての理念を加え、ホームとして取り組み始め、利用者の生活に広がりが見られる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長以上が参加する会議で理念の確認や実践に向けて話し合いを行なっている。	○	ホーム長にとどまらず、職員全員が理念の共有と具現化に努めることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは町内会に加入し、地域の行事に参加したり、児童会館の子供たちと交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、自己評価の項目ごとに手分けして記載をしているが、ガイドブックを十分参照していない面がみられる。具体的な改善に向けて十分な話し合いが不足がちである。	○	職員全員が項目について検討し、改善に向けての話し合いを十分にされる取り組みを期待したい。

岩見沢市 グループホームほろむい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ほろむい2号館と合同で2ヵ月毎に幅広い範囲のメンバーで開催し、報告のみでなく、活発な意見交換を行ない、運営に参考にしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも連携をとり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
3	5	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各ユニット毎に隔月「お便り」を発行し、家族の方々にホームの暮らしがわかるように写真などを盛り込んで作成し、お送りしている。また、面会の少ない家族の方々には電話で連絡をしている。		
3	5	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方々から、意見をいただけるように玄関に意見箱を設置している。面会時には、家族の方々と話し合いを多くして、要望などを聞くようにし、要望内容に基づき会議で話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットの職員はほとんど異動がなく、落ち着いて利用者と暮らしをともにしている。また、行事などはユニットの枠にしばられずに合同で開催し、ほかのユニットの職員とも馴染みの関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームとしての研修はほとんど開催されていないが、職員間で相互に話し合いがされている。外部研修の出席も困難な状況で比較的小さい。	○	職員の質の向上と利用者への対応や、日頃の課題取り組みなど、運営法人内で研修を企画し、定期的な学びの場を期待したい。さらに外部の研修について、情報の提供のみにとどまらず、参加に向けての取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で唯一のホームであり、ほかの業者は地域内に見られないが、運営法人内のグループホームで5ユニット運営し、日常的に行事や会議など、利用者も職員も交流がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりホームの利用が開始されるのではなく、併設のデイサービスやユニットの見学などにより、不安がないように配慮し、馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	様々な状況の利用者に、職員と一緒に家事や体操を日頃からともにし、利用者から学んだり、支え合ったりしながら、相互の関係を良好にしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームで何を希望し、どのように過ごしたいのか、利用者本位に意向や思いを把握し、家族の方々と話し合い、困難な場合は職員で十分検討しあっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット内では、利用者の担当職員を決め、日頃から係わりを深くしているが、ケアのあり方などチームで検討し、利用者本位の介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、6ヵ月または、3ヵ月毎にしている。毎月、ユニット職員で話し合いをし、家族の方々の意見を参考にしながら、介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の方々の状況、希望などにより、通院の送迎や必要な支援に応じられるように努力している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医療機関の訪問診療受診の方、利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診している方など、利用者本位に受診し、安心した暮らしを支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは、「重度化した場合の対応に係る指針」に基づいた話し合いを、利用者一人ひとりに対して医師及び看護師、さらに家族の方々と連携を取る体制になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に努め、利用者一人ひとりの尊厳を重視している。家族などの面会簿を個別の記載に変更し、プライバシーに配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の介護度の相違や体の状態を的確に把握し、その人らしく過ごせるよう支援している。食事介助など一人ひとりに対しての支援をしている。		

岩見沢市 グループホームほろむい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど、利用者の協力出来るところは一緒に作業しているが、職員は各自弁当持参で別の場所で食事をし、職員1名が見守り支援をしており、利用者と一緒に食事をしていない状況がみられる。	○	食事介助を優先し、職員が利用者と一緒に食事をしていない状況であるが、グループホームにおける暮らし全体の中でも重要な位置にある食事の意味や、利用者との係わりなどを含め、利用者と一緒に食事を楽しめる工夫を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状況によって対応し、危険のないように安全に入浴支援をしている。特に車椅子利用者などは、シャワー浴を実施している。また、併設のデイサービスの浴室の利用もあり、さらに温泉など、広がりのある入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、庭の手入れや、室内での洗濯物整理など、出来る範囲で利用者の状況に合わせた生活の中で、見守りつつ暮らしの一部として、充実感を持つように支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋外の行事を多く計画し、ユニットの枠にこだわらず、希望者が参加し、職員とともに日帰り温泉など、楽しんでいる。また、デイサービスの行事に参加・見学することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の生活は自由で、外玄関は開閉の際、音が鳴る仕組みになっている。日中は施錠していない。		

岩見沢市 グループホームほろむい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年に1度防災訓練を実施している。夜間想定訓練や、地域の協力が得られるような働きかけは、まだされていない。	○	隣接のホーム並びに併設のデイサービスと合同の訓練はあるが、さらに夜間想定訓練や地域の協力など、課題への取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	運営法人で栄養士が利用者の状況を把握して献立を作成し、量や水分などを吟味された食事を提供している。摂取量などこまめに記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、居間、食堂を中心に各居室が周囲に配置され、利用者の顔が見える温かい雰囲気のあるホームとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は床暖房で快適に過ごせるようになっており、ベッド以外は馴染みの調度品などを持ち込み、安心の住まいとなっている。しかし、不安定な行動をとる傾向があるということで、夜具をはじめ、私物を一切置いていない利用者もいる。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。